

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



バンクーバーオリンピックでは、アスリートたちの活躍に感動をもらいました。勝者と敗者、単にそれだけではなく、試合に至るまでの選手と選手を支えてきた人々の長い道のりを思うと、目頭が熱くなってしまいました。J-DAVIDも多くの方々の声援に支えられて進んでまいります。

## 世話人からのメッセージ

### 「生き延びるから生きるまで」

札幌北楡病院 人工臓器治療センター  
久木田 和丘 先生

「昨日透析で入ったお婆ちゃんが足の骨、折ったんだって」病棟回診に行っていた時どこからかそのような声が聞こえてきた。卒業後4年目、岩見沢市立病院の外科研修で大平整先生のもとに赴き、透析患者さんとは初めて接した時である。30年くらい前まだバスキュラーアクセスとして外シャントが残っており、当直以外でも血栓に対応するため夜間担当が決められていた。北海道内でも透析が可能な施設は少なく、末期腎不全は道内のあちこちから紹介されていた。虫垂がとれて胃切までできれば鼻が高くなるくらいに考えていたので、延々と続けなければならない当時の重症透析は気が重かった。透析で骨折まですると当時予後はすぐ目の前に見えていた。しかしシャントにだけは興味があったためそこから透析の世界にも少し踏みこんだ。研修で札幌に戻るとさらに大先輩の今忠正先生がおられ時々、札幌北クリニックに呼んでいただいた。いまでも食事会にもお呼びいただき感謝している。現在は、元来専攻が外科であったため腎不全外科ともいべき治療に携わっているが、ある意味で全く新しい分野なので広い情報収集のもと創意工夫をした治療が必要である。

活性型ビタミンDが発売されたのは1981年であるが、画期的な薬剤であり骨折の頻度の低下や腎性上皮小体機能亢進症の発症の低下が期待された。しかし一方、種々透析療法の進歩による恩恵とともに透析患者絶対数は増加し、かつ長期透析が可能となると、それらの合併症は相対的に増加してきた。それに対してはさらにその後の新薬も発売されている。大きな流れとしては多大なる進歩である。活性型ビタミンDの発売によりその作用に関する報告がなされ、免疫調節作用、サイトカイン分泌調整、レニンアンジオテンシン抑制効果、心機能改善、冠動脈石灰化調整などが判明してきた。ビタミンDレセプターは小腸、腎臓、上皮小体のみならずほぼ全身の組織にその発現がみられている。ビタミンDはサイトカインネットワークのように全身代謝・反応の大きな一つの歯車となっていると考えられる。その後リコンビナントエリスロポエチンの登場によりさらに透析患者の生活様態は向上している。透析が始められたころはまず生き延びる治療であったが、現在は通常のように生きるのが治療目標である。今回、西沢良記先生、庄司哲雄先生のご発案でJ-DAVIDが企画された。世界でも論文数が少ないとされる腎臓領域で、新たな前向き研究がなされることは喜ばしく成果の発表を期待している。



## 最近の文献から

**ビタミンD使用血液透析患者が生存に有利かどうかは疑問である：DOPPS研究からの所見**

**The survival advantage for haemodialysis patients taking vitamin D is questioned: findings from the Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study.**

Tentori F, et al. Nephrol Dial Transplant 24: 963-72, 2009

【ポイント】DOPPS研究の参加者38,066のデータを用いて、ビタミンD処方と死亡リスクの関連を患者ベースと施設ベースの二つの方法で解析した。患者ベースでの解析では、ビタミンD処方は低い死亡リスクと関連しており、time-varying modelでもmarginal structural modelでも示された。一方、施設レベルの解析では、ビタミンD処方率の高い施設は死亡リスクが低いという関連は認められなかった。

詳しくは [http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list\\_uids=19028748](http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=19028748)

## 最新進捗状況

累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(2月24日現在)

### 各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	72	1
山形	3	6	0
宮城	5	2	0
東京	28	23	6
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	0	0
神奈川	2	12	0
愛知	17	5	3
大阪	48	199	0
奈良・和歌山	3	27	0
京都	4	59	0
広島	5	18	0
島根	7	3	1
徳島	2	0	0
高知	3	5	0
愛媛	1	18	0
福岡・佐賀	11	5	0
沖縄	6	3	0
合計	170	457	11

### クエリー回収状況報告

	観察開始時	3カ月	6カ月	12カ月
発行件数	309	126	52	9
回答受領件数	242	94	35	7

### 累計登録数ランキングTOP10

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	55
②	桃仁会病院／京都	47
③	北彩都病院／北海道	28
④	翠悠会診療所／奈良・和歌山	27
⑤	永山クリニック／大阪	25
⑥	札幌北楡病院／北海道	20
⑦	佐藤循環器内科／愛媛	18
⑧	大野記念病院／大阪	15
⑨	小野内科／大阪	14
⑨	大町土谷クリニック／広島	14

### 2月度登録数ランキングTOP5

順位	施設名	登録件数
①	吉祥寺あさひ病院／東京	4
②	瀬戸共立クリニック／愛知	3
③	大田姫野クリニック／島根	1
③	北彩都病院／北海道	1
③	東京綾瀬腎クリニック／東京	1
③	東和病院／東京	1

### 症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3カ月	6カ月	12カ月
457	341	137	109	39

## J-DAVID事務局からお知らせ



### ご登録に際するお願い

・確実に書類等をお届けするために、ご登録頂いている先生以外に実務御担当医がいらっしゃる場合は、J-DAVID事務局にご連絡頂けますよう宜しくお願い致します。

・症例登録後、こちらから登録結果をFAX送信致しますので、2～3日中に用紙が届かない場合は恐れ入りますが、事務局までご連絡頂けますよう宜しくお願い致します。(FAX送信の際に、受信確認のお電話を致しますのでご了承下さい。)



編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分内分泌態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
データセンター  
電話・FAX 06-6646-3105

ホームページもご覧下さい。  
<http://j-david.info/>